

重点3 自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

はじめに

- ここでは、「総合的な学習の時間」の充実に向けて、指導の在り方や諸計画について具体例を示しながら説明します。

あなたの学校では「総合的な学習の時間」はどんな時間になっていますか？

例えば、



●●先生、明日の「総合的な学習の時間」は何をしましょうか？



文化祭の展示物を貼る時間がないから、来週の「総合的な学習の時間」を使おう！



先生、今日の「総合的な学習の時間」は、何をしますか？

もし、上のような会話が行われているとしたら、その時間は、「探究的な学び」の時間になっていると言えるでしょうか？

Q1 総合的な学習の時間の目標はどうやって決めたらいいの？

各学校が定める総合的な学習の時間における目標は、**学校教育目標の実現**につながるものとなっていることや、総合的な学習の時間を通して育成を目指す**資質・能力**が示されていることが重要です。

Q2 総合的な学習の時間の内容はどうやって定めたらいいの？

内容については、「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の2つを定めます。

目標を実現するにふさわしい探究課題とは、**探究的に関わりを深める人・もの・ことを示した**ものです。例えば、「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」、「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」、「実社会で働く人々の姿と自己の将来」など、**現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題**などを踏まえて設定することが大切です。

また探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは、各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示すことが重要です。

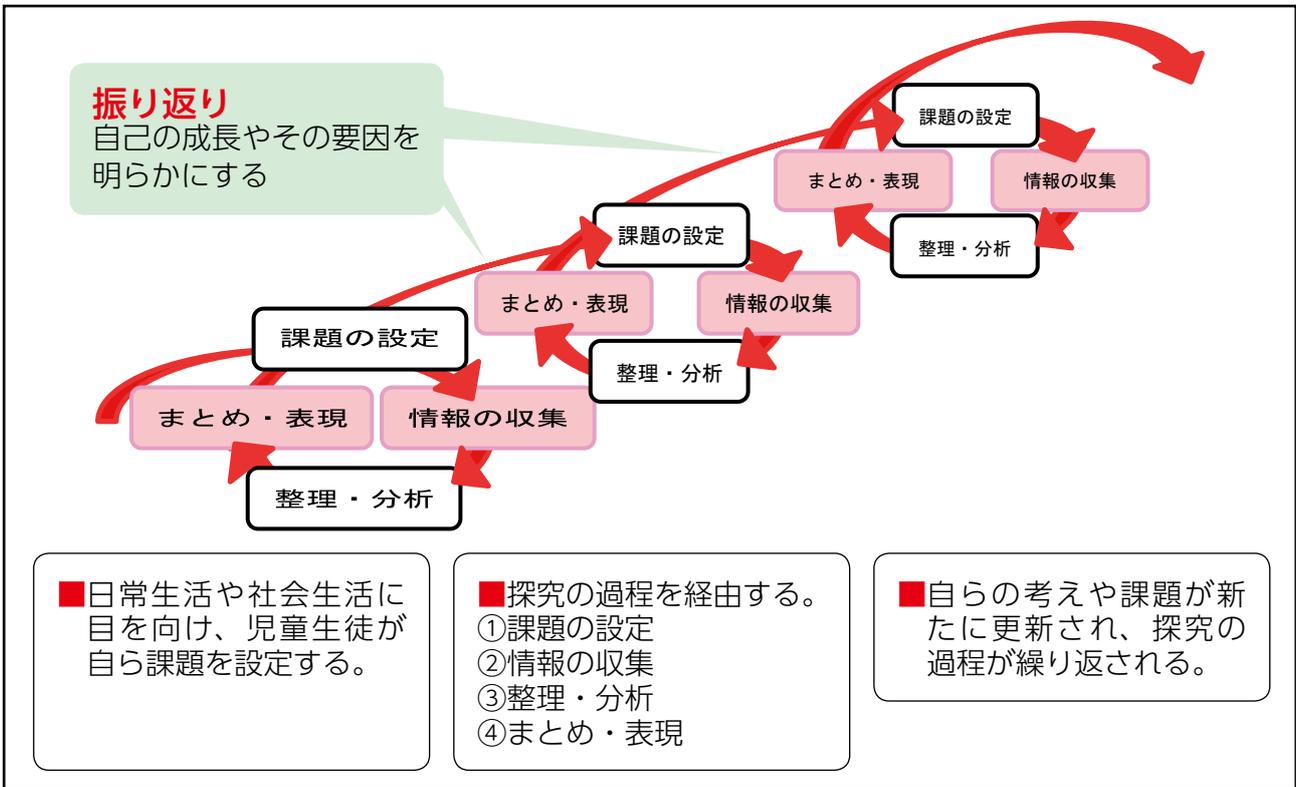
Q3 総合的な学習の時間の学習活動はどうやって進めていったらいいの？

探究的な学習（日常生活や社会に生起する複雑な問題について、その本質を探って、見極めようとする学習）の過程を踏まえた学習活動になっていることです。

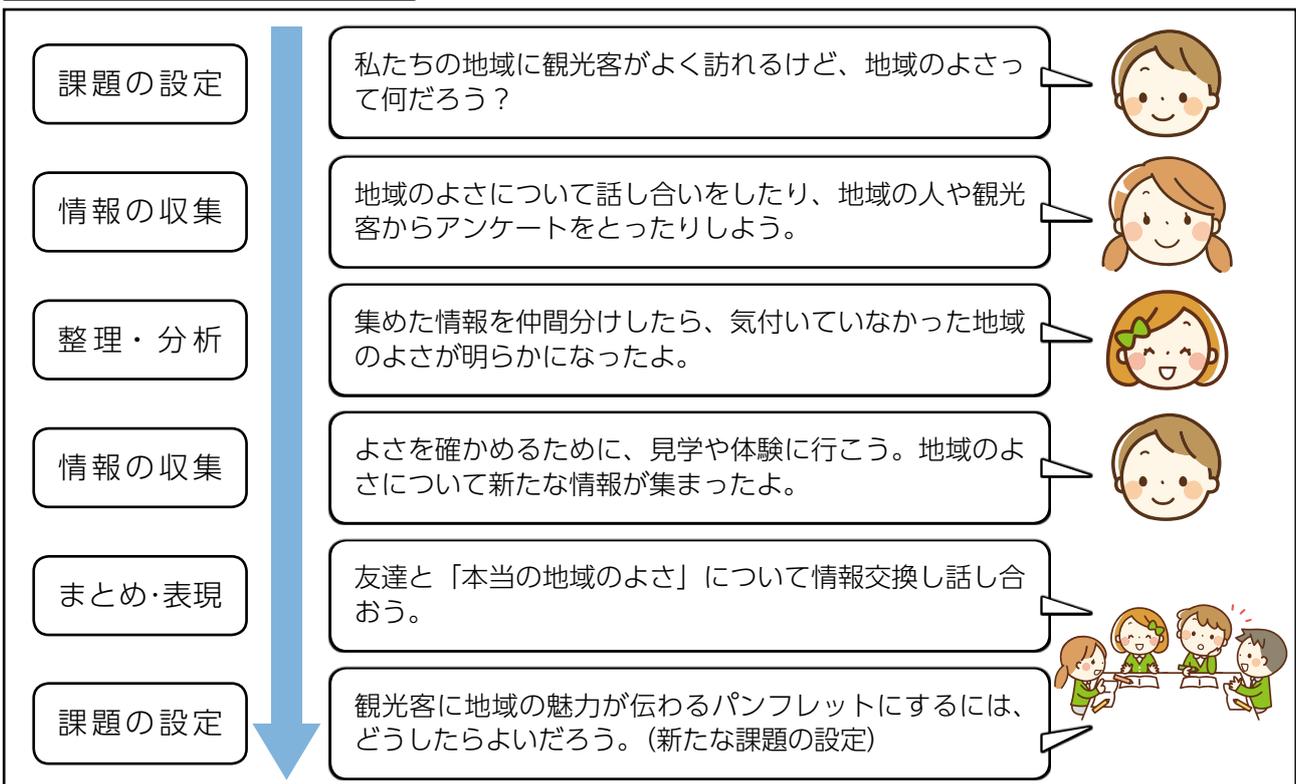
Q4 探究的な学習とは？

「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」など、問題解決的な活動が**発展的に繰り返されて**いくことです。

探究的な学習の過程



探究的な学習の過程の例



- 「総合的な学習の時間」で年間を通して探究的な学習を進めていくために適切な諸計画を作成することが大切です。以下に主な3点について、作成のポイントを示します。

(1) 全体計画について

(2) 年間指導計画について

(3) 単元計画について

(1) 全体計画について

- 全体計画とは、学校として総合的な学習の時間の教育活動の基本的な在り方を示すものです。次の頁の図1は、その作成例です。

【作成のポイント】

学校教育目標の実現には、教職員全体で共有することが大事です。全体計画を作成することにより、総合的な学習の時間で目指す大きな方向性を理解することができます。その上で、今まで行ってきた学習活動が、探究的な学習になっていたのか見直しましょう。



以前の全体計画と何が違うの？

- 全体計画では、以下の7項目を示すことが考えられます。

- ①各学校における教育目標（学校教育目標）
- ②各学校において定める目標
- ③各学校において定める内容（探究課題、資質・能力）
- ④学習活動
- ⑤指導方法
- ⑥指導体制
- ⑦学習の評価

【参考】

I 各学校において定める目標 P55 Q1参照

II 各学校において定める内容（探究課題、資質・能力）P55 Q2参照

III ④学習活動、⑤指導方法、⑥指導体制、⑦学習の評価については、その基本的な内容や方針等を示すことが考えられます。

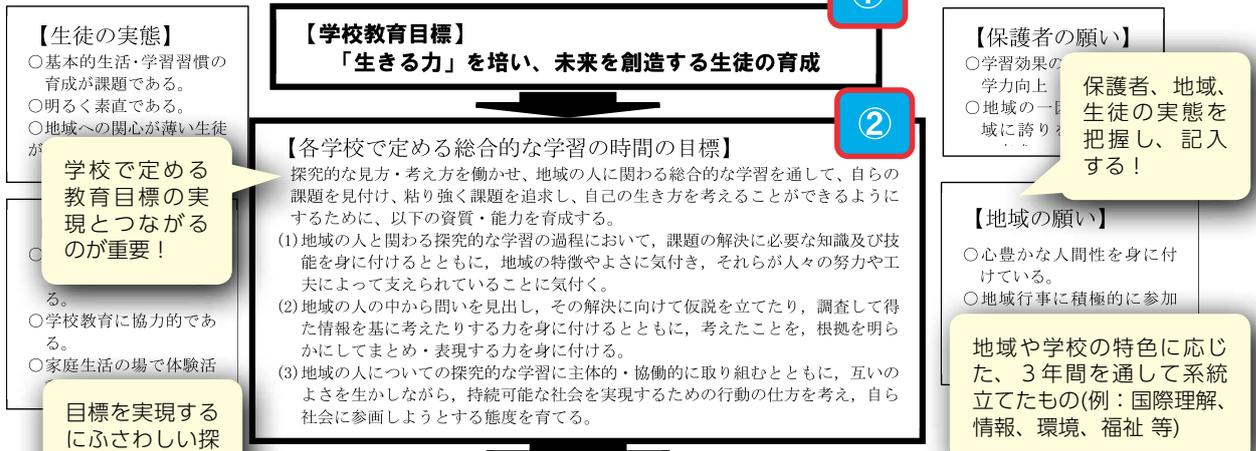
①～⑦を示した全体計画の例は次頁を参照ください。

- 各学校が全体計画を示す上で必要と考える場合は、以下の項目を示すことが考えられます。

- ・年度の重点、地域の実態、学校の実態、児童生徒の実態、保護者の願い、地域の願い、教職員の願い
- ・各教科等との関連、地域との連携、小中学校との連携

【図1 作成例（菊池市立菊池南中学校）】

令和〇〇年度 ■■■中学校 総合的な学習の時間 全体計画（例）



全学年	第1学年（60時間）	第2学年（60時間）	第3学年（60時間）
各学年	「菊池を知る」	「菊池に学ぶ」	「菊池を創る」
テーマ	「菊池や地域の生活文化や風習」	「将来の進路と菊池の産業・生産者」	「まちづくりのために取り組んでいる人々と組織」
探究課題	・「いのち」と「くらし」、人権と福祉への学び	・「いのち」と「くらし」、人権と福祉への模索	・「いのち」と「くらし」、自らの生き方
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能 ・菊池や地域の生活文化や風習が分かる。 ・身のまわりの差別を見抜く力を身に付けている。 ・情報を比較・対照し、活用している。 思考力・判断力・表現力等 課題の設定 ・現状に広く目を向けて、課題意識を持ち、課題を設定している。 情報の収集 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集し適切な方法で蓄積して活用している。 整理・分析 ・設定された課題に対し、解決過程を決定し、必要な情報は何かを考えた上で、課題解決に向けて必要な情報を収集し、整理・分析している。 まとめ・表現 ・まとめた課題について、グループで話し合い、発表している。 振り返り・考えの更新 ・まとめた課題について、グループで話し合い、発表している。その間のプロセスについても検証し、次へ向けて新たな課題を生み出す。	知識及び技能 ・菊池の産業の特徴が分かる。 ・社会にある差別に気づき、仲間との関わりで考える力を身に付けている。 ・情報を多面的に見る、考えを具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。 思考力・判断力・表現力等 課題の設定 ・現状に広く目を向けて、課題意識を持ち、課題を設定している。 情報の収集 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集し適切な方法で蓄積して活用している。 整理・分析 ・設定された課題に対し、解決過程を決定し、必要な情報は何かを考えた上で、課題解決に向けて必要な情報を収集し、整理・分析している。 まとめ・表現 ・まとめた課題について、グループで話し合い、発表している。 振り返り・考えの更新 ・まとめた課題について、グループで話し合い、発表している。その間のプロセスについても検証し、次へ向けて新たな課題を生み出す。	知識及び技能 ・まちづくりに関わる人々の思いや願いが分かる。 ・社会にある差別を見抜き、自分の生き方、在り方について考える力を身に付けている。 ・情報を構造化する、抽象化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。 思考力・判断力・表現力等 課題の設定 ・現状に広く目を向けて、課題意識を持ち、課題を設定している。 情報の収集 ・目的に応じて手段を選択し、必要な情報を収集し適切な方法で蓄積して活用している。 整理・分析 ・設定された課題に対し、解決過程を決定し、必要な情報は何かを考えた上で、課題解決に向けて必要な情報を収集し、整理・分析している。 まとめ・表現 ・まとめた課題について、グループで話し合い、発表している。 振り返り・考えの更新 ・まとめた課題について、グループで話し合い、発表している。その間のプロセスについても検証し、次へ向けて新たな課題を生み出す。
	学習活動 ・地域の実態、生徒の実態を把握し、探究課題を設定する。 ・委員会活動を中心に、学校の課題・地域の課題解決のための活動の充実を図る。 ・地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。 ・学習成果を表現する場として学習発表会を活用する。	指導方法 ・生徒の課題意識を連続、発展的に支援と工夫を行う。 ・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した学習活動の展開を行う。 ・対話やコミュニケーションを重視した学習活動の充実を図る。 ・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。	指導体制 ・全校指導体制を組織する。 ・運営委員会における校内の連絡調整と指導体制を確立する。 ・学校図書館の整備・充実を図る。 ・外部人材との連携を図る。
	学習評価 ・ポートフォリオを活用した学習評価の充実を図る。 ・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。 ・個人内評価を重視する。 ・指導と評価の一体化を充実する。 ・授業分析による学習指導の評価を重視する。 ・期末・年末には指導計画を評価する。		

内容との関わりにおいて実際に生徒が行う学習活動

学習活動を適切に実施する際に必要とされる指導方法

適切に推進するための指導体制

生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、指導計画の評価

【各教科等との関連】

各教科	道徳科	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ意欲と傾聴する力の向上 探究的な学びの素地を養う 協働的な学習場面の設定 わかる授業、活気のある授業の展開 知識及び技能の確実な習得と活用 言語活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科の時間を要として、思いやりの心を育む 指導の重点項目「真理の探究、創造」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「思いやり、感謝」「社会参画、公共の精神」「相互理解、寛容」 	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する。 合意形成や意思決定ができるようにする。 役割を分担して協力して実践する。

【小学校や近隣の中学校、進学先との連携】

【近隣の小学校との連携】
<ul style="list-style-type: none"> 小学校で育成された資質・能力の系統性を確認する。 小学校での学習内容を確認する。 ポートフォリオなどの学習の記録を行う。 菊池南中の「総合的な学習の時間発表会」を校区内6年生に公開し、中学校の総合的な学習の時間への見直しをもつ。
【近隣の中学校との連携】
<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の目標、内容、年間指導計画等の交流。 指導方法や学習評価の在り方の合同研修を行う。
【進学先との連携】
<ul style="list-style-type: none"> 中学校での総合的な学習の時間の目標、内容、年間計画等及び育成を目指す資質・能力の提供 等

(2) 年間指導計画 (総合的な学習の時間を中核にした単元配列表) について

● 年間指導計画とは、1年間の流れの中に単元を位置付けたものです。次の資料は、他教科との関連を図り、育成を目指す資質・能力を見通すための年間指導計画 (単元配列表) の作成例 (八代市立植柳小学校) です。

わざわざ書き出すのは大変...
もう分かっていることなのでは？



① 1年間のすべての学習内容を書き出し、学習の見通しをもつ。

【探究課題】地域の祭り・様々な民族芸能から地域の未来を創造する

つけた資質・能力 ・必要な情報を収集し、整理する力を身につけるとともに、地域の伝統文化の素晴らしさに気づき、伝承の課題や携わってきた人々の思いや願いを、祭りに向けて自分たちでできる解決方法を探り、未来へつなげていくことができる。
・地域の伝統文化と自分たちを結び付けながら、生活や意識を見直していこうとすることができる。

今まで児童の意識の中で、何となくつなげていたもの(資質・能力)を、教師が意識してつなげていきながら学習を進めていくことが大切です。



行事等	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
国語	支度 ・カレライス ・春のいぶき	笑うから楽しい ・時の流れと心 ・学級討論会しよう ・筆者の疑問をどう考え、自分の考えを発表しよう	漢字の形と音・意味 ・私と本 ・森へ	児童の屏風 ・よこそとを伝えるペンフレットを作ろう ・ようこそ私たちの町へ	・せんねんまんおん ・戦勝の成り立ち ・たのしみは ・意見聞き合って考えを深め、意見発表しよう	・未来がよりよくなるために ・生活の中の言葉 ・やまなし ・秋の深まり	・読書レシオ ・会 ・上	・読書レシオ ・会 ・上	・伝えられたもの(狂言・山伏) ・日本を使う文字 ・表現を遊ぶ ・天竺の朝	・未知へ ・自然に学ぶ春らし ・忘れられない言葉	・カンジュー博士の山登り ・春を待つ冬 ・海の命 ・今、私は、ぼくは
書写	書く姿勢 ・振り返ってみよう	基本的な筆使い ・字形	組み立て方 ・字形の整え方	・文字の大きさ ・筆順に気を付けて	・文字の大きさ ・筆順に気を付けて	・大まかさと配列 ・文字の中心と配列	・大まかさと配列 ・文字の中心と配列	・「希望の朝」 ・春らしの中の政治	学習したことを生かして書き初め	・6年を使う漢字 ・読みやすく書く	
社会	オリエンテーション ・国づくりに向ける	大隈に学んだ国づくり ・武士の政治が始まる	今も受けつがれる ・春町文化 ・全国統一への動き	新しい文化と学問 ・新しい時代の幕明け	・近現代国家に向けて ・戦時と人々のくらし	・春らしの中の政治	・春らしの中の政治	私たちの政治を支える書 ・日本とつながりが深い国々	・世界のなかの日本 ・日本とつながり ・量が深い国々	・6年を使う漢字 ・読みやすく書く	
算数	対称な形 ・文字と式	分数×分数 ・向の面積	分数×分数 ・向の面積	図形の拡大と縮小 ・自由研究 ・月と太陽	・速さ ・比 ・比と反比例 ・水溶液の性質変化	・立体的な体積 ・土地のつくりと変化	・立体的な体積 ・土地のつくりと変化	資料の調べ方 ・資料の調べ方	・整理して ・電気の性質とはたらき	・6年のまとめ ・復習	
理科	物の燃え方	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	植物の成長と日光の関わり	

総合	郷土の伝統芸能を学ぼう④	郷土に誇れる八代妙見祭～地域未来を創造しよう⑩	小単元1 (発見) ⑩	小単元2 (探究1) ⑩	小単元3 (探究2) ⑩	小単元4 (表現) ⑩	最高の卒業式を目指して⑩	
道徳	・おばあちゃんの指定席 ・プラコ乗りとピエロ ・ボラテニアアッて楽しいよ ・感じたままに	・遠出の賑わい ・ヤリガンナ ～西側第一～ ・原爆も焼きつくさなかった差別	・二つのもったいない ・めぐみ ・自由だからこそ ・自由第四の命	・三十大又十四回分の ・あきらめることは無意味だ ・血は必ずそこに	・自由の気持ちは分か りますか ・手紙をくれたあな たたちへ ・兵隊さんのハバリ ンペン	・自由という名の勇 ・私の気持ちが分か りますか ・手紙をくれたあな たたちへ ・兵隊さんのハバリ ンペン	・自由という名の勇 ・私の気持ちが分か りますか ・手紙をくれたあな たたちへ ・兵隊さんのハバリ ンペン	・自由という名の勇 ・私の気持ちが分か りますか ・手紙をくれたあな たたちへ ・兵隊さんのハバリ ンペン
音楽	・豊かな歌声をひびかせよう ・お気に入りの場所	・いろいろな音のひびきを味わおう ・強くてやさしい ・組木バズル	・いろいろな音のひびきを味わおう ・強くてやさしい ・組木バズル	・いろいろな音のひびきを味わおう ・強くてやさしい ・組木バズル	・いろいろな音のひびきを味わおう ・強くてやさしい ・組木バズル	・いろいろな音のひびきを味わおう ・強くてやさしい ・組木バズル	・いろいろな音のひびきを味わおう ・強くてやさしい ・組木バズル	
図工	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	
家庭	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	・生活を見直そう	
外国語	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	・When is your birthday? ・運動会のスローガンを考える	
学活	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	・係の活動を活発させよう ・学級の旗・キャククターを作ろう	
クラブ	・地域のいろいろなことに親しもう	・地域のいろいろなことに親しもう	・地域のいろいろなことに親しもう	・地域のいろいろなことに親しもう	・地域のいろいろなことに親しもう	・地域のいろいろなことに親しもう	・地域のいろいろなことに親しもう	

手順①
1年間の学習内容を表
に書き込みます。
・生活科や「総合的な学習の時間」を中心に、矢印でつなげやすくなります。
・すべて書き出すことで、年間を通して学習が一望でき、指導の見通しがもてます。

地域の方といろいろなことに親しもう

② 総合的な学習の時間と他教科との関連を図った単元配列表へ変えていく。

		【探究課題】地域の祭り・様々な民族芸能から地域の未来を創造する							
		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
行事等	入学式 進級式 運動会	表座談会 発表会							
国語	筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう ・字形 ・大題に学びだ国づくり ・武士の政治が始まる								
書写	情報の効果的に伝えるために								
社会	国づくりへの歩み								
算数									
理科									
総合	郷土の伝統芸能を学ぼう④								
道徳	わたしたちの妙見祭								
音楽	日本と世界の音楽に親しもう 越天楽今様 雅楽「越天楽」から								
図工	地域とのつながりを広げよう								
家庭	My best memory								
外国語	What do you want to be?								
学習	感謝の式をしよう								
生活	卒業に向けて実行								
クラブ	地域の方といろいろなことを親しもう								

手順②
他教科等で育成したい力や、学習内容の中で、「総合的な学習の時間」で育成を目指す資質・能力と関連があるものだけを残します。

手順③
総合的な学習の時間の学習活動を想定し、他教科等で育成したい力を活用・発揮できるよう、矢印でつないでいきます。
・例えば、国語科で身に付けた資料を整理する力、新聞やリリーフレットにまとめて表現する力を総合的な学習で活用しよう...など。
・「総合的な学習の時間」で〇〇についての探究活動を行うから、各教科等の学習計画の時期を少し変えてみよう...なども考えられます。

単元配列表を作成し活用することで、各教科等で育成される資質・能力、そこで行われる学習活動がそれぞれにどのような関係になっているかが明らかになります。学びが相互に関連付いたり連動したりして、「活用・発揮」が実現する場として、総合的な学習の時間を中核に捉えたと資質・能力の育成につながります。

(3) 単元計画

- 次に単元計画の作成のポイントについて説明します。

単元とは、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとめりです。単元づくりは、教師が意図やねらいをもって、児童生徒の実態に即して行います。児童生徒にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとめりとなるようにするには、児童生徒の興味や疑問を適切に扱うことが大切です。総合的な学習の時間には教科書や指導書がありません。探究的な学習を行うために、単元の計画を細かく立てておくことが大切です。

また、児童生徒が「問い」を立て、自分なりの方法でゴールに向かって学習を進めていくためには、教師のコーディネートが必要です。「問い」を生み出す資料や体験活動、GTとの出会い、事実、調べたことを整理したり議論したりする学習活動を、単元のどこの場面で提示・設定するかを細かく単元の計画として作成すると探究的な学習が生まれます。

単元計画設定例（四つの小単元がつながって、探究的な学習になっていきます）

〇〇小学校総合的な学習の時間の単元計画【第6学年：41時間】	
探究課題	地域に伝わる祭りとそれに携わる人々の思いや願いに迫り、自分たちの生活・未来を創造する
単元名	世界に誇れる「八代妙見祭」～地域の未来を創造しよう～
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に伝わる祭りの歴史や保存活動の知識を深め、新たな課題に気付く。 ・文化遺産に指定されるまでの携わってきた人々の歩みや思いや願いを感じ取り、伝承の課題やそれらの解決方法について自分なりの考えをもち、必要な情報を効果的にまとめ、発信する。 ・地域の伝統文化と自分たちの生活を結び付け、生活や意識を見直していく。
【発見】「八代妙見祭」はどのように受け継がれてきたのか調べよう（歴史・これまでの活動・歩み）	
小単元1 10時間	<p>【課題の設定】 ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭に関心を持ち、調べていくための見直しを持つ。</p> <p>【情報の収集】 八代妙見祭の歴史・神幸行列・それぞれの活動など様々な視点から情報を収集する。</p> <p>【整理・分析】 収集した情報や体験活動を通してわかったことを、視点を決めて分類・整理する。</p> <p>【まとめ・表現】 八代妙見祭についてわかったことを視点ごとに新聞にまとめる。 ・クラスや学年でまとめたことをポスターセッションする。</p> <p>【振り返り】 八代妙見祭の歴史や出し物についてまとめることができたので、魅力や携わる方々の思いに目を向け、次の課題を設定する。</p>
【追究1】「八代妙見祭に込められた思い」を知り、実際に体感しよう	
小単元2 10時間	<p>【課題の設定】 八代妙見祭に携わる方々の「祭りに込められた思い」に迫るような課題を設定する。</p> <p>【情報の収集】 GTを招き、祭りの様子や八代妙見祭の魅力について話を聞いたり、体験したりする。</p> <p>【整理・分析】 調べたり考えたりしたことを分類・整理し、課題に対して自分の考えをもつ。</p> <p>【まとめ・表現】 八代妙見祭で活動している方々の思いをまとめ、八代妙見祭の魅力という形で表現する。</p> <p>【振り返り】 八代妙見祭の魅力についてのまとめを行う。その中で伝承の課題点や問題点などを知り、新たな課題を設定する。</p>
【追究2】八代妙見祭を未来へつなげるための提案を考えよう	
小単元3 10時間	<p>【課題の設定】 妙見祭を受け継いでいる方々に話を聞き、伝承の課題を知り、追究課題を設定する。</p> <p>【情報の収集】 追究課題について予想し、課題別グループで調べるテーマを設定し、調査活動を行う。</p> <p>【整理・分析】 収集した情報や体験活動を通してわかったことを、視点を決めて分類・整理する。</p> <p>【まとめ・表現】 祭りに込められた人々の思いや願いをまとめ、携わっている人々の思いや自分たちの思いをポスターにまとめる。</p> <p>【振り返り】 これまで追究してきたことを振り返り、自分たちにできることは何かということに着目し、次の学びへつなげるよう振り返りを行う。</p>
【表現】祭りの伝承リーダーになって、地域の宝を未来へつなげよう。	
小単元4 9時間	<p>【課題の設定】 調べてきたこと、どのように伝えるのかを考える。</p> <p>【整理・分析】 発表する内容を考える。 ・学習についての情報をまとめる。</p> <p>【情報の収集】 収集した内容を深めるため、情報を再度収集する。 ・効果的に伝えるための方法を考える。</p> <p>【まとめ・表現】 1年間の学習の内容を効果的にまとめ、妙見祭について相手意識・この意識を明確にして伝える。</p> <p>【振り返り】 今まで調べてきたことから、自分の成長に気付くよう振り返りを行い、これからのように自分の気付きを広げていくかを考える。</p>

ポイント①
単元全体のイメージをもつ

「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り」の一連の流れを整理し、児童生徒の思いや予想とともに変更したり、見直したりしながら単元をつくっていきます。

ポイント②
問いでつなげる小単元

小単元がつながっていくよう、各単元の終末場面では、探究したことから生まれた疑問を出し合ったり、新たな課題の設定につながるような事実を提示したりすることで、児童生徒の探究への意欲と学びを継続していきましょう。

探究したい、調べたいと感じるわくわくするような問いを意識した単元の課題の設定の工夫を…！



作成したポスターを実際の場で活用してもらうなど、社会に貢献する実体験を計画に位置付けるのも効果的です。

ポイント③
魅力的なゴールの設定

この学習はなんのためにやっているのか、ゴールを魅力的なもの、実生活へと活かせるもの、地域とつながるものにできるのも総合的な学習の時間ならではの工夫です。

単元計画をつくり、児童生徒の実態や教師の思いを取り入れ、見直しながら実施していきます。毎年ストックしていくと学校の財産になります。誰が見ても、何年生の担当になっても、その学校に赴任したばかりの教師も、総合的な学習の時間を探究的な学習の時間にすることができます。

- このような計画をもとに、探究的な学習を実践するに当たって、以下の点を確認しましょう。
 - 子供が自分なりの課題を設定し、見通しをもって学習に取り組んでいるか。
 - 目的に応じて必要な情報を適切に集めているか。
 - 集めた情報を自ら整理したり分析したりしているか。
 - 整理・分析した情報をもとに、自分自身の考えを交えて表現しているか。
 - まとめて表現したものや一連の学習活動を振り返り、新たな課題を生み出しているか。

おわりに

- 「総合的な学習の時間」の目標は、学習指導要領に示された目標を踏まえて、各学校で定めることとなっています。また、「総合的な学習の時間」には、教科書がありません。だからこそ、「総合的な学習の時間」においては、各学校の創意工夫した特色ある学習活動が展開できるのではないのでしょうか。

育成を目指す資質・能力を明確にして、計画を練って実行することで、子供たちの生きる力は、確実に育成されていきます。

そして、学習活動を展開する際、「探究的な学習の過程」になっているかどうか、ポイントとなります。これを重視することが「総合的な学習の時間」における「主体的・対話的で深い学び」の実現につながり、子供たちに育てたい力が育成されていきます。
- 「総合的な学習の時間」を通して育成を目指す資質・能力の実現に向けて、他教科等との関連を図りながら教育課程を編成、実施、評価し、改善を図っていくことは、教育課程の実施状況を評価し、改善していくカリキュラム・マネジメントの側面と深く関わっています。そのような意味から、「熊本の学び」の中核とも言えます。

まずは、各学校において育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラムを教師が協力して作成することが、第一歩です。そして、その計画に基づき実践を行い、気付きや修正点を次年度に引き継いでいきましょう。

あなたの学校で「総合的な学習の時間」に関して、こんな声が聞こえてきたら、総合的な学習の時間が充実している証拠です。



【職員室で】

来週の「総合的な学習の時間」では、～について子供たちが集めた情報を整理・分析する時間をとりましょう。



【各教室で】

前回集めた情報を、同じ内容で仲間分けして整理してみよう。

夢の実現に向けて

～主体的に学びに向かう力を育むキャリア教育の充実～

- 「なぜ学ぶのか。」「この学びは将来何の役に立つのか。」という子供たちの問いの答えは、キャリア教育にあります。キャリア教育のねらいは、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けるといふこと。それは、まさに、「学ぶ意味」を問いながら「能動的に学び続ける力」を身に付けるといふ「熊本の学び」の理念と相通じるものです。
- 今回の学習指導要領改訂では、小・中・高等学校でキャリア教育の充実について新たに明記されました。このことにより、キャリア教育の視点を踏まえた授業の実施は、これまで以上に重要になります。ここでは、キャリア教育や、今後、各学校で作成が必要となるキャリア・パスポートについて説明します。

まずは、キャリア教育についてあらためて整理します。

Q1 キャリア教育とはどのような教育ですか？

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」です。

子供たちが、学ぶことと自分の将来とのつながりを見通しながら、社会の中で自分の役割を果たしつつ自分らしい生き方を実現していくための力を育みます。

Q2 キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力とは、どのような力ですか？

「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の四つです。

それぞれの力の例は、以下のとおりです。

- 人間関係形成・社会形成能力：他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップ等
- 自己理解・自己管理能力：自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動等
- 課題対応能力：情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力等
- キャリアプランニング能力：学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計等

Q3 キャリア教育は、どの教科で行うのですか？

特別活動の学級活動を要としながら、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習等、学校の教育活動全体を通じて行います。今回の改訂では、特別活動の学級活動の内容に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新たに設けられました。

指導に当たっては、子供たちが活動を記録し蓄積する教材等（「キャリア・パスポート」）を活用することが大切です。

次に、「キャリア・パスポート」の必要性について説明します。

Q1 「キャリア・パスポート」とはどのようなものですか？

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が自らの学習活動等の学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材のことです。

令和2年度（2020年度）4月から、すべての小・中・義務教育学校・高校において実施することとなっています。

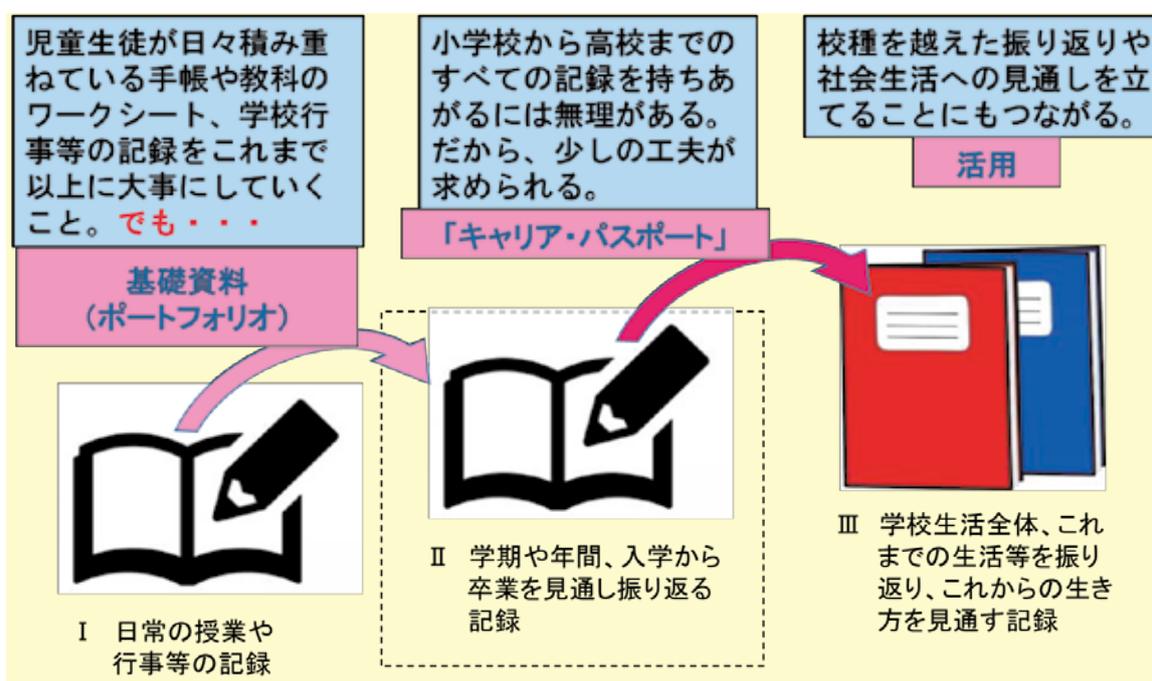
Q2 「キャリア・パスポート」の目的は何ですか？

子供たちにとっては、小学校から高校を通じて、自分の学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐものです。また、教師にとっては、その記述をもとに対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に役立てるものです。

あくまでも子供たちを成長させるための手段であり、「キャリア・パスポート」に記入すること自体が目的ではないことに留意しましょう。

Q3 「キャリア・パスポート」のポイントは、何ですか？

- 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする
- 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする
- 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする
- 大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わるができるものとする
- 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする



「キャリア・パスポート」の実践例を紹介します。

- 天草市立牛深東中学校では、平成30年度から2年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定校（特別活動）等を受け、研究の視点の一つに「キャリア・パスポート」を掲げ、取り組んでいます。以下に、その一部（自己評価シートの活用）を紹介します。

自己評価シートの活用

自己評価シートの評価項目は、本研究の「つきたい資質・能力」の各項目の文頭に「あなたは」をつけ、文末を質問形式にして作成した。

【実施時期】

- ① 4月（学年始め）
- ② 5月（体育大会終了後）
- ③ 10月（文化発表会終了後）
- ④ 2月（学期終わり）

【記入方法】

- ・ 4段階評価で自己評価し、コメントを書く。
- ・ 九つの項目の中で、自分が最もつきたい力に印をつける。→途中で、変更も可（その際は、最初とは違う色で印をつける）

【「明日の自分へひとこと」例】

4月（学年始め）
違う考え方も理解しようとは思っているけれど、つい否定してしまふ。

5月（体育大会後）
自分とは違う考え方の人の意見も受け入れようと努力して、少しは受け入れることができました。

知識及び技能 (何を知っているか、何ができるか)	人間関係形成 人それぞれ、考え方や感じ方が違うということを知っている。	社会参画 話合いの仕方、合意形成の仕方を知っている。	自己実現 自分のよさ(強み)を知っている。
思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	違う考えであっても、否定せずに最後までしっかりと聴くことができる。	集団の課題に気づくことができる。	いろいろな考えや立場の人の意見を生かして、意思決定をすることができる。
学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	いろいろな考えや立場の人と協力しようとすることができる。	行事やV・S活動に積極的に取り組もうとしている。(貢献)	自分のよりよい生き方のために、進路を見通して努力しようとしている。

気づき・考え・実行する自己評価シート ()年()号()

1 できない 2 あまりできない 3 だいたいできる 4 できる

天草市立牛深東中学校

	人間関係形成	社会参画	自己実現
知識及び技能 (何を知っているか、何ができるか)	○あなたは、人それぞれ、考え方や感じ方が違うということを知っていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、話合いの仕方、合意形成の仕方を知っていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、自分のよさ(強み)を知っていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4
思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	●あなたは、違う考えであっても、否定せずに最後までしっかりと聴くことができますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、集団の課題に気づくことができますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、いろいろな考えや立場の人の意見を生かして、意思決定をすることができますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4
学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	○あなたは、いろいろな考えや立場の人と協力しようとしていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、行事やV・S活動に積極的に取り組もうとしていますか？(貢献) ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4	○あなたは、自分のよりよい生き方のために、進路を見通して努力しようとしていますか？ ① 1 2 3 4 ② 1 2 3 4 ③ 1 2 3 4 ④ 1 2 3 4
明日の自分へひとこと			
①4月26日 違う考え方も理解しようとは思っているけれど、つい否定してしまふから		②5月23日 自分とは違う考え方の人の意見も受け入れようと努力して、少しは、受け入れることができました。	
③10月 日		④1月 日	

重点4 安心と信頼にあふれ、高め合う学級をつくりましょう

1 本重点の概要

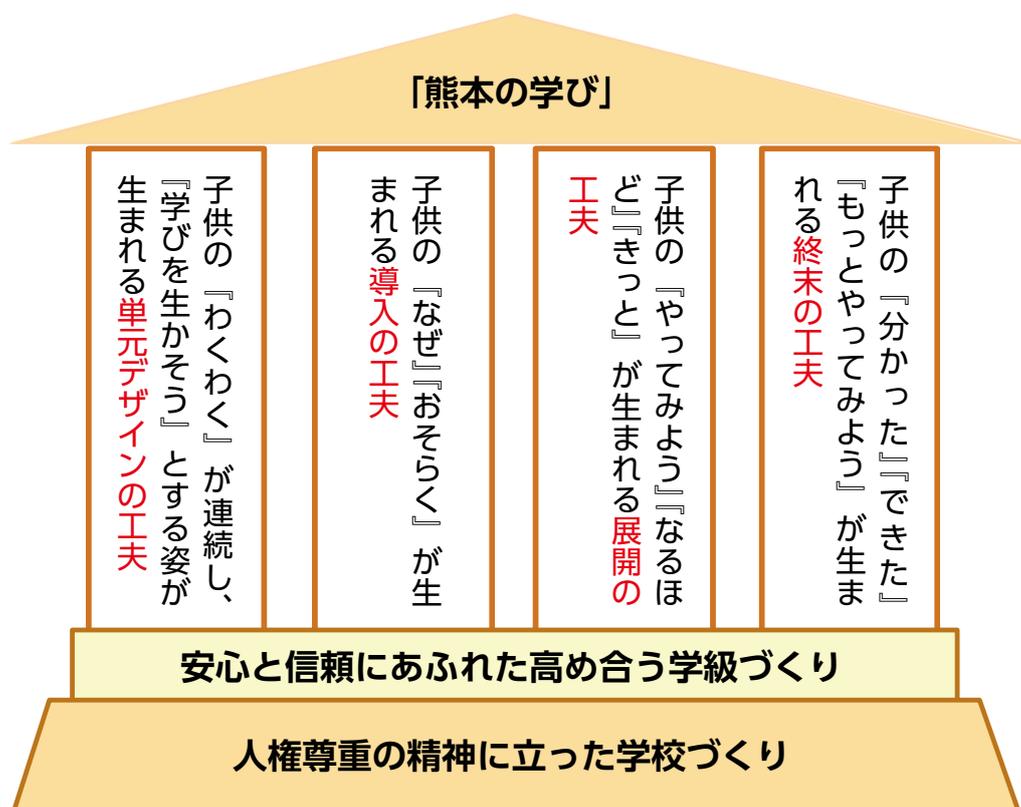
- 「熊本の学び」総合構想会議では、以下のような意見が出されました。

- ・すべての子供たちの質の高い学びのためには「学級づくり」が大切である。
- ・一定の学習規律の中で、基礎基本が定着し、それを活用して様々な日常の事象を解決する、もしくは解決したいと思うような授業づくりを、これまでの熊本の授業づくりでも目指してきた。
- ・様々な学習活動を行う学習の土台として、学級づくりによる支持的風土の醸成が重要である。 等

- 新学習指導要領解説総則編においては、「学習や生活の基盤として、教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。」と示されています。

ここでは、学級経営という言葉が意味する教育活動の本質的な部分や、熊本の学びで目指したい具体的な子供たちの姿や取組の例を紹介します。

学級づくりと「熊本の学び」のイメージ図

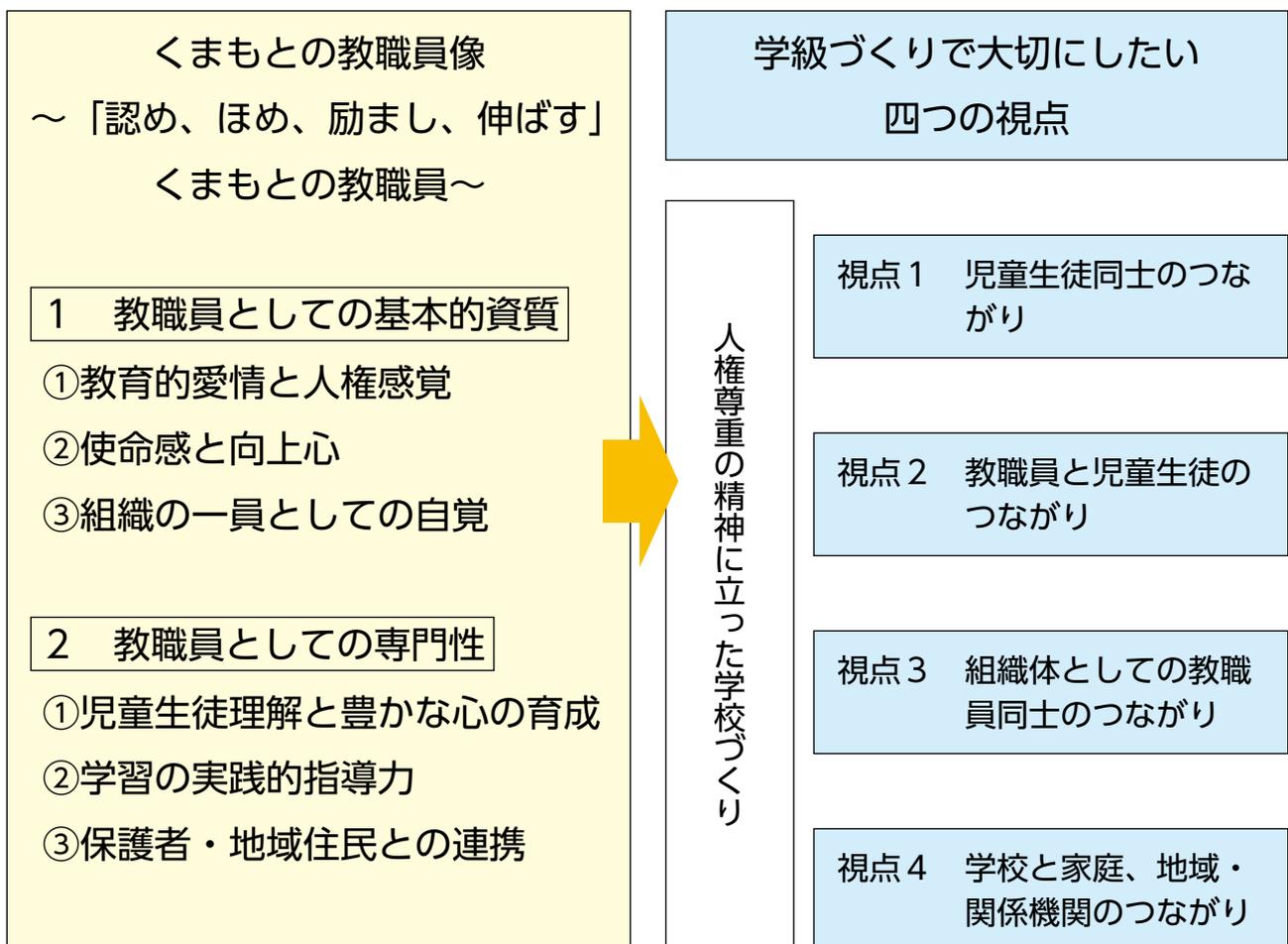


2 学級づくりで大切にしたいこと

- 学級経営の好事例のノウハウ等は、これまでも本県の先輩教師等から脈々と受け継がれていますが、好事例の根底には、教育活動を進める上での教師の本質的な姿勢や考え方があります。

ここでは、充実した学級経営を行っている教師が意識的に実践していることや、無意識に心がけていることは何かを整理しています。

- また、本県には、平成17年に「くまもとの教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』くまもとの教職員～」として、教職員の基本的な行動指標が示されています。この「くまもとの教職員像」を基に、充実した学級経営を行っている教師が普段心がけていることを以下の四つの視点で整理し、学級経営における「熊本の教師の心がけ10か条」として示しています。



※「四つの視点」…「子供の居場所づくり推進テーブル」の点検項目

安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた 熊本の教師の心がけ 10か条

視点1 児童生徒同士のつながり（「子供」と「子供」）

① まずはオープンマインド

ソーシャルスキルトレーニング等の手法を授業に取り入れ、子供たちの笑顔が絶えない教室の雰囲気づくりに努めましょう。

② みんなちがって、みんないい

子供たちの失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりする授業づくりや言葉かけを意識しましょう。

③ 授業は全員参加・全員活躍

教材・教具や授業展開を工夫し、すべての子供が学習活動に参加し活躍できるようにしましょう。

④ ハードルはチャンス

一人では解決困難な課題を与えましょう。教え合ったり、助け合ったりする必然性が生まれ、子供同士のつながりが強固になります。

視点2 教職員と児童生徒のつながり（「教師」と「子供」）

⑤ 子供の「よさ」を見付ける

子供一人一人の言動をよく観察し、一人一人のよさを様々な角度から見付けましょう。わずかな成長や、その子が持つよさに気付く目を養いましょう。

⑥ 自ら示す「生き方モデル」

子供たちに指導したことと自身の言動に食い違いがないようにし、生き方で大事なことは、言葉だけでなく、自身の姿で語るようにしましょう。

⑦ 評価はタイムリーに

子供一人一人のよさや頑張りを積極的に認め・ほめ、常に「見守っているよ」、「応援しているよ」という教師の気持ちが伝わるようにしましょう。

視点3 組織体としての教職員同士のつながり（「教師」と「教師」）

⑧ 学校は組織体

話し合っただけの指導内容は、みんなで意識をそろえて実践しましょう。子供たちへの指導は、担任一人だけでなく全職員で一致した指導を行いましょ。

⑨ 風通しのよい職場

授業の成功や失敗、学級づくりの悩み等を職員室で語り合いましょ。学級経営のヒントは、隣のクラスの実践から見付かります。

視点4 学校と家庭、地域・関係機関のつながり（「学校」と「家庭、地域・関係機関」）

⑩ 保護者・地域は子育てのパートナー

「こうなってほしい」という願いや思いを共有し、それぞれにしかできないことを明確にし、互いに協働・連携して、熊本の未来を創る子供を育てましょ。

学級集団の捉え方

学級には、個性や考え方の異なる子供たちが学級の枠組みにおり、そこに、また子供たちとは個性の異なる教師が存在します。そのような異質な集団の中で、一人の教師が自身の考え方や価値観ですべての子供を無理やり枠組みに納めようとする、一人一人の子供がもつよさや、その子が何かしら学級に貢献していることが見えなくなることがあります。そればかりか、教師の考え方や指導方針に合わない姿ばかりが見えてしまい、「ほめる」どころか「叱る」ばかりになってしまいがちです。

資質・能力は育てられても、個性そのものはその子をもって生まれたものです。教師の型にはめるために、その子の個性を整えるのではなく、むしろ個性を生かしながら、その子が何かしら集団の中で貢献しているプラスの部分積極的に見付け、その子の個性が学級集団の中で伸びるように仕組むことが大切です。

「当たり前」の中にほめるヒント

子供のよさや頑張りを見えなくするのは、大人が目線から見た「当たり前」という意識です。授業中、教師や友達の話を聞いている姿、当番活動をしている姿、友達と会話をしている姿など、「当たり前」の中には、一人一人の子供のよさや頑張りを認める要素、ほめる要素がたくさんあります。そのような見方していると、毎朝学校に登校し教室に入るといことさえも、認める、ほめるに値することかもしれません。見方を変えて、「当たり前」のことを「頑張っている」「誰かの役に立っている」という視点で捉え、「当たり前」がいかに素晴らしい行為であるか、しっかり価値付け子供たちと共有することが大切です。

コミュニケーション抜きに信頼関係は深まらない

学級の人数が多ければ、1日のうちに全く会話をしなかった子供が出てくるかもしれません。日常的にコミュニケーションをとっていないことには、信頼関係が深まるはずがありません。一方で、コミュニケーションをとるタイミングが注意や叱ることばかりになっているとしたら、信頼関係が深まるどころか、教師への不満、不信感ばかりが積もり、関係は悪化の一途をたどります。

そこで、1日の終わりにどの子と話をしたか、話をしていない子はだれか、必ず振り返るようにしましょう。もし、全く話をしていない子がいれば、もしくはそのようなきっかけづくりが難しければ、その子と会話する場面を意図的・計画的につくる必要があります。

【例1】コミュニケーションがとれていない子には、教室後方の教具をもって来るようお願いする等、ちょっとした頼み事を意図的につくりましょう。その際、「ありがとう、あなたのおかげでみんなが助かったよ。」等と感謝の意をしっかり伝えましょう。

【例2】朝の挨拶で、一人一人に声をかけましょう。短時間でできることですし、子供たちの表情等から、様子の変化に気付きます。

教師の思いや考えを伝える前に、子供の気持ちを理解することが先

教育活動の中で子供を叱る場面が必ずでてきます。その時に、自分の思いや考えを一方的に伝えてはいないでしょうか？子供の行為には、必ずその子なりの考えや理由があります。それを理解せずして教師の思いや考えを伝えても、子供が自分の行為を反省することはありません。

人は、自分の気持ちを理解してくれる人には好感をもつものです。「つらかったね」「大変だったね」等とまずは子供の言い分をしっかりと聞き、気持ちを理解する言葉をかけましょう。そして、子供が心を開いたとき、そのタイミングを逃さず伝えるべきことを伝えましょう。

子供に考えさせる

教師の考えや思いを長々と伝えても、子供の心には響かないことがあります。考え行動するのは子供たちです。授業と同じで、大事なことは教師が説話するのではなく、「なぜ、〇〇をしたのか」「何が悪かったのか」「どうしたらよかったのか」「これから、どうしたらいいのか」等と子供に問いかけて、子供から話させましょう。教師の思いや考えを一方的に伝えるのではなく、子供に考えさせ自覚するように導くことが大切です。

行為の変容を求めたら、必ず評価を

指示だけ、叱るだけで、その後の子供の変容を見えていますか？子供のわずかな変化（行動・表情）も見逃さず、その子がしている、もしくはしようとしている姿を認め、ほめることが大切です。これは「常にあなたのことを見ている」「あなたに関心がある」という教師のメッセージをその子に届け、存在意義を認めることでもあり、子供との信頼関係が深まるとともに、学級集団に貢献する子供を育てることにもつながります。

【学級経営と学力の関係】

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書から

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査において、児童生徒質問紙と学力のクロス分析が行われています。この分析では、学級経営に係る以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向があるという結果が出ています。

- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- 学校に行くのは楽しいと思う
- 学校のきまり〔規則〕を守っている

これらの調査結果からも、学級経営と学力の相関関係が大きいことが分かります。

3 「熊本の学び」で目指したい具体的な子供の姿や取組の例

友達のよさを認め、信頼し助けあえる子供

自分一人で学ぶだけでなく、他者と協力し合いながら学習を進めることで、学びは深まっていきます。一人一人の個性が認められ安心できる学級、互いを信頼し協働できる支持的風土づくりが授業づくりには欠かせません。

Before

- 友達のよさを改めて発見したり、認めたりできないことがある。
- 分からなくても友達に聞けない。困っている友達に気付かない。

After

- 友達のよさを認め、相手の立場を考え行動することができる。
- お互いに協力し、助け合いながら学習活動を進められる。

○ 友達の思いを知り、それぞれのよさを見付けさせる活動を行わせる。

「帰りの会」……友達にしてもらって嬉しかったことや、友達の行動で感心したことを紹介させる。

「学校行事」……子供たちの思いや努力したことなどを紹介する掲示物などを作成する。



○ 「仲間づくり」を大切に、学級集団としての意識を高めさせる。

「学級活動」……「クラスで遊ぶ日」や「ミニクラスマッチ」などを企画・実行させる。

「特別活動」……仲間づくりを目的とした構成的グループエンカウンターを継続的に行う。

○ 協力する喜びを感じさせ、自分たちの活動を振り返らせる。

「学校行事」……体育大会や合唱コンクール等を通して、感動を共有させ、互いのよさに気付かせる。

場面に応じた行動ができ、学習のルールが守れる子供

教室の中には、学習のルールが必要です。児童生徒が学習のルールを意識することで、学習効率が高まり、安心感のある学級がつくられます。発達段階に応じた学習規律を徹底し、メリハリのある授業を展開することが大切です。

Before

- 一旦騒がしくなったら、なかなか静まらない。
- 学習のルールがなかなか守られない。
- 自分勝手にしゃべりだす。

After

- 教師の指示が一斉に伝わる。
- 発表の仕方等ルールが徹底されている。
- 考える場面と話し合う場面などのメリハリがついている。

○ 学び方のルール（話の聞き方、発表の仕方など）を考えさせる。

学び方のルール（話の聞き方、発表の仕方など）を子供たち自身に考えさせる。定期的に子供たち自身が学び方を振り返り、改善していくような活動を行う。



○ 発達段階に応じた「聞き方」「話し方」のポイントを示し、徹底する。

発達段階に応じた聞き方・話し方のポイントを掲示物などでモデルを示しながら、継続的に指導する。子供の成長に伴って、自律的な活動につなげていく。

○ 学級集団の中のルールを徹底し、習慣化させる。

学校生活の中であいさつ指導や基本的な学習規律の指導を徹底し、習慣化させる。子供の様子を見届けて、できたらたくさんほめる。

相手の話を受け止め、自分の考えを発信できる子供

「熊本の学び」では、自分なりの考えをもち、それを友達のと比較したり、参考にしたりして、自分の考えを深め、練り上げ、発信できる子供たちの育成を目指します。そのような子供が育つことにより、更に深い学びを実現することができます。

Before

- 話を聞いてはいるが、考えながら聞くことができず、意見を求められても何を言えばいいのかわからない。
- 「同じ意見です」「分かりました。」など、パターン化された言葉が飛び交う。
- 限られた子供たちだけが発言し、それらの意見により授業が進んでいく。

After

- 友達の話聞きながら、自分の考えと比べたり、自分の考えを補強したりして受け止めている。
- 話し合う活動を通じて学びを深めたり、学習を広げたりする。
- 自分なりの方法で考えを発表したり、書いたりして発信している。

○課題に対してクラスの全員に、自分なりの意見をもたせる。

学び合いの場面等では、自分の考えをもつ段階→友達の見解と比較する段階→友達の見解からさらに練り上げる段階などの過程を意識して、全員が意見をもてるように配慮する。

○子供たちの意見を比較させたり、分類させたりして、自分の意見を深めさせる。

「二つの意見で同じところはどこかな」、「他の考え方はないかな」等の発問で、子供たちの思考を揺さぶり、自分の考えと比較させ深めさせる。

○教師自身が一人一人の意見を大切に示す姿勢を示す。

発言しない子供にも配慮し適切な支援を行うとともに、それぞれの意見を認め励ます声かけを行う。



意欲や向上心をもち、高め合いながら学ぶ子供

学ぶことに対する意欲や向上心は、生涯求められるものです。学ぶことの楽しさを感じることができる授業づくりを進めるとともに、子供たちの意欲や向上心を継続させ、高めるような手立てを仕組んでいくことも大切です。

Before

- 席に着き、静かにはしているものの意欲的に動くことがない。
- 自分の意見を発表したり書いたりすることが少ない。

After

- 分からないことや疑問などを、たずねたり調べたりして解決しようとする。
- 目標をもって意欲的に学習し、学んだことを生活や学習に生かす。

○学習のゴールを明確にし、目標をもって学習に臨む姿勢を育てる。

単元計画や単元のゴールの姿を具体的に示し、子供たちが目標をもって意欲的に学習し、実生活につながる授業づくりを進める。

○子供の「がんばりやつぶやきを逃さず、タイムリーな評価を行う。」

子供たちの日々の姿やつぶやきを大切に、言葉かけを行う。できたことの喜びやほめられたことの心地よさを感じさせることにより、子供たちの意欲や向上心を高め、伸ばしていく。



グローバル社会を豊かにたくましく生きていく力を！

～「英語教育日本一」を目指して～

グローバル化の急速な進展の中、外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力は、子供たちが将来どのような職業に就くとしても、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されます。

また、語学力・コミュニケーション能力の他にも、主体性やチャレンジ精神、協調性・柔軟性、課題発見・解決能力、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー等も大切であり、このような資質・能力は、英語の授業のみならず様々な教育活動を通して育成していくことが大切です。

本県では、次のような子供たちの姿を目指し、「熊本の学び」による日々の授業の充実とともに「英語教育日本一」の実現に向けた取組を進め、これからのグローバルな社会を子供たちが豊かにたくましく生きていくための教育を推進していきます。

(1) 目指す子供の姿

「自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りを持ち、英語で発信することができる児童生徒」

指標

CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合の向上

※現状

年度	H28	H29	H30
熊本県	26.3%	36.3%	40.8%
全国平均	36.1%	40.7%	42.6%

(2) 県教育委員会の取組

「英語教育日本一」の実現に向け、県教育委員会では、主に次のような取組を行っていきます。

① 日常の英語授業の充実に向けて

■先生方の指導力向上に向けた研修会の実施

■「英語授業づくりの10のポイント」を活用した授業実践 ※県教委HPに掲載

【例】Point 2 年間を通したパフォーマンステストの計画と実施

Point 4 単元目標の到達に向けた本時の目標の設定 など

② 子供たちの英検等への積極的な挑戦を支援

■外部検定試験への積極的な挑戦を支援するための受験料補助

③ 異文化理解・異文化交流活動の促進

■ALTとの異文化交流体験活動「肥後っ子わくわくイングリッシュキャンプ」

④ 郷土を愛し、郷土に誇りをもつ心の醸成

■道徳教育用郷土資料「熊本の心」や平成28年熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」の活用促進



